
虚偽の頂

蜜壱makoto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虚偽の頂

【Nコード】

N2395D

【作者名】

蜜雫makoto

【あらすじ】

従者の独白。懸崖の頂にどつかと座り、足元の愚民を見下す王の憐れな御伽芝居。

思えば僕は君が嫌いだった。

無意識の内に他人より、僕より優位な崖の上から下を覗き込んで
尤もらしい言葉を選んで投げ落としているのだもの

独りでは何もできやしない、虚偽の王様、君

時には愛しの隣国の皇女の前で舌つ足らずな歌を奏でた。

譽れを讃えなければ自らギロチンへ向かう愚かさ、0へ逃げるのが
お好きなのね

時には遥か彼方廃街のジプシーの胸の中で母性を欲し甘えていた。

愛撫され温かさ優しさを奪い取り、0になった可哀想なジプシーに
は声も凍る風。

ああ寒いと嘆き動かぬ指を王の温かな服に伸ばすも

君は芥の様に彼女を放り、偽りの姥捨て森。

王よ、最早春は貴方を厭い

王よ、最早夏は貴方を憎み

王よ、最早秋は貴方を忘れ

王よ、最早冬は貴方を否む

懸崖の上に四季は無い

さざめく清澄の海の中、貴方の為に抉った五体を癒すクランケ
君にはきつと見えない

ぐるりと守られているとお思いとの仔細、哀れ誰一人として君を好
むものはいないのに。

懸崖の上から見下ろすだけの弱い脆い見せ掛けだけの君に

四季の方寸など到底

深海の蒼に似た優しさ

斜陽の紅に似た裏切り

君は未だに見抜けず、信じ縋り付く享樂。

幼心を誇るその愚鈍な生育曆、どう切る御心算なのかしら

愛しの王妃は隣国王子に連れ行かれ、ジプシーはある文士に救済の左手を差し伸べられた。

虚偽の異地、地獄の底の妖氣に何時まで囚われ満悦の笑みを浮かべるのか。

よく見てみなさい。

小さな眼を見開きなさい。

洋梨の様に甘美な瞳だというのなら、フォークで突き刺して食べて差し上げる。

見えないほうがいいのかもしれないね

壊死してしまいうそう、狂ってしまいうそう、ナイフとフォークで自分を食べてしまいう狂気

甘い眼球を背けるのなら水面から首を刈り取って連れ行ってあげたいのだけれど

蒼と紅は相容れない仲、汚らしい血を運ばないと憤怒されてしまふの。

見なさい。

- - - - - 君が立っているその鏡の懸

崖を

見上げなさい。

- - - - - 君が見下していた者全てを

.....王よ。食事の時間、19時です。

ナイフとフォークを今すぐ用意させましょうね、本日はCランクの肉ですがご了承を。

思えば僕は君が好きでしうがなかつた。

無意識の内に他人より、僕より下位な海底に身を沈め人に騙され人に否まれ、もう誰も傍にいないのなもの。

でも残念だ、憐れな王よ。

だって君はもう行儀良く肉を食べてしまったのなもの。

0が好きだつた君へ

0の部屋を棺桶に贈与するよ

0の生命のその部屋で

1人寂しく食事を楽しむといい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2395d/>

虚偽の頂

2011年1月8日14時47分発行